

# 四万十町議会 定例会

## 町長施政方針・行政報告要旨

本年4月30日には天皇陛下が御退位され、翌5月1日には皇太子殿下が御即位されます。

新元号のもと、新たな時代への気運が高まっていく中、本町も「平成のその先」に向かって、新たな時代を切り開いていかなければなりません。

また、本年10月の消費税率の引上げ、翌年の復興五輪に向けた動きなど、目まぐるしい一年を迎えようとしており、本町としても、国の対策に歩調を合わせつつ、財源の有効活用と十二分な対策を講じていく必要があります。

本町では、第2次四万十町総合振興計画に基づき、子育て支援、人材育成、移住定住促進、地産地消・外商など、さまざまな施策を講じ、その成果が見えつつあります。

人材育成では、平成29年度に人材育成推進センターを設置し、未来塾・四万十塾・産業振興塾の分野ごとに、地域を担う人材の育成に取り組んできたほか、子育て支援では、出産祝金や

多子世帯における保育料の軽減・無償化、中学生までの医療費無償化に加え、部活動等への支援や高校生対象の公設塾「じゆうく」の開設など、それぞれのライフステージに応じた支援を講じてきました。

移住定住促進では、基幹産業の農業で生活するための就農支援、若者定住と家族で支え合える仕組みづくりを目的とした住宅支援制度の創設をはじめ、町のPRとUターン者の拡大のための「四万十町東京オフィス」の開設など、さまざまな施策を講じてきました。

地域ブランド総合研究所の全国魅力度ランキングでは、平成28年度が36位、平成28・30年度がともに四国内1位を獲得するなど全国でも上位となり、これまでの取り組みや成果が、移住者数の増加に繋がっており、またUターン者が年々増加するなど、具体的な成果として表れてきています。

また、社会の大きな流れとして、ICT、IoTやAIといった技術により経済発展と社会的課題の解決を両立させる動きが加速する中、社会基盤が弱い弱本町にとっては受け入れ難い面もありますが、これからの地域を支える若者や子どもたちのためにも、この流れに臆せず、しっかりと取り組まなければなりません。

このため本町では、無人型飛行機に

平成31年度には、新たに策定する地産外商推進計画を定め、これに基づく多様な施策の展開により引き続き事業者の支援に取り組めます。

### ■自然・体験型観光の取り組み

本年2月に開幕した高知県の「リョーマの休日自然&体験キャンペーン」に連動し、本町では町内観光事業所等の環境整備を推進しています。

本格的な観光シーズンを迎え、自然を活用して外貨を稼ぐ動きを展開する中で、今月は、海洋堂ホビー館四万十による、漫画「北斗の拳」の特別展が開催されます。

町としてもこれを一つの切り口として、「自然体験」や「食」などを盛り込んだ周遊企画を展開します。

### ■若井笠ノ川池ため池改修工事

先の定例会で報告した笠ノ川池に係る会計実地検査の対応については、同定例会でコア土天端の保護および風波による堤体浸食防止工事の補正予算500万円が議決されました。

当該工事は、本年1月に会計検査院から対策工法の承認を得ましたので、2月末に発注し、3月下旬には完成する予定です。

よる空撮映像や農業用センサー等を活用したIoT農業・スマート農業の推進や、福祉・防災面での活用を検討していきます。

平成31年度は、これまでの取り組みや成果をさらに一歩ずつ着実に進めるとともに、新時代にふさわしい、新たな視点と戦略により、全国に誇れる「四万十町ならではまちづくり」、町民の誰もが「四万十町に住んで良かった」と思えるまちづくりに向けて精一杯取り組みます。

### ■本庁舎の不正オイルダンパー

先の定例会では、東庁舎のオイルダンパー2基が不適合品であったと報告しましたが、西庁舎の4基も不正疑惑が公表されたため、KYB株式会社の役員等が来庁し、その経緯と今後の対応についての説明を受けました。

その内容は、平成26年以前の製造記録が残っており適用品であることの確認ができなかったため、既に不適合品であることが判明している東庁舎の2基のほか、当初は問題ないと報告した西庁舎の4基を「不明」として取り扱うというものでした。

また、庁舎の安全性を確保するための構造計算検証用資料は、国土交通省の確認を受け、現在、第三者機関で検証中とのことで、その結果が分かり次第、

### ■水道料金の改定

本町の水道事業は、上水道と簡易水道の2会計で経営していますが、国の方針として国庫補助対象事業を水道事業の統合推進に重点化するため、簡易水道事業は上水道と経営統合することを条件として採択されています。

簡易水道は平成32年度から公営企業が適用される上水道に統合されるため、統合後10年間の経営状況を試算したところ、現状程度の一般会計繰入金があれば経営は成り立ちますが、施設の更新や耐震化等の資本整備の資金が準備できない状況です。

昨年12月には、これらの課題を踏まえて健全な水道事業経営のための適正な水道料金を検討するため、有識者や水道使用者で組織する四万十町水道料金適正化検討委員会を開催しています。今後も引き続き適正な水道料金の改定に向けて取り組みます。

### ■小中学校適正配置計画

教育委員会からの提言に基づき、適正配置計画案を作成して四万十町学校適正配置審議会に諮問を行いました。同審議会は、町内全学校の訪問、各小中学校での意見交換会への出席を経て、その現状や意見等を踏まえた協議を重ね、2月27日に答申書を提出しています。

第、速やかに報告を受けることとしています。

同社に対しては、当該オイルダンパーを速やかに交換すること、これまでの経緯と今後のスケジュールを文書で提出することを約束しましたので、交換工事の時期などについては、後日改めてお知らせします。

### ■移住促進の取り組み

昨年6月に設置した四万十町東京オフィスでは、2度実施した現地ツアーに町の情報発信のインフルエンサー「四万十町応援女子部」が参加し、そこで体感した情報をSNSなどで多くの方々に発信していただきました。

また、町出身者の郷土愛を育むことを目的として8月と11月に東京で開催した「四万十町オフ会」には、約80名の方々に参加いただいており、これらの成果として、平成29年度は移住者190人のうちUターン者の占める割合は2割でしたが、平成30年度は約4割に増加しています。

このほか、町の食材を活用して町を応援していただく「四万十町応援店」も17店舗開拓しました。

町では、学校適正配置等推進本部会で適正配置計画案を作成しており、今後は、意見公募手続きを経て、4月には「第2期四万十町立小中学校適正配置計画」を策定して公表するとともに、各地域での説明会を予定しています。

### ■国保診療所医師の異動

大正診療所の石井所長は5年間、十和診療所の石田所長は2年間、それぞれの地域で、かかりつけ医としてご尽力いただきましたが、3月末で退職されます。

これにともない大正診療所には、構原町立国保病院から入居医師が、十和診療所には、西予市国保土居診療所から豊崎医師が赴任します。

町民の皆さまには、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

